

特別支援教育とは

1

障害の捉え方

障害に関する国際的な分類としては、昭和55年、世界保健機関（WHO）から「国際疾病分類（ICD）」の補助として発表された「WHO国際障害分類（ICIDH）」が用いられていました。ここでは、障害を3つの観点（機能障害、能力障害、社会的不利）から捉え、疾病から帰結する一方向性の概念モデルとして示されていました。

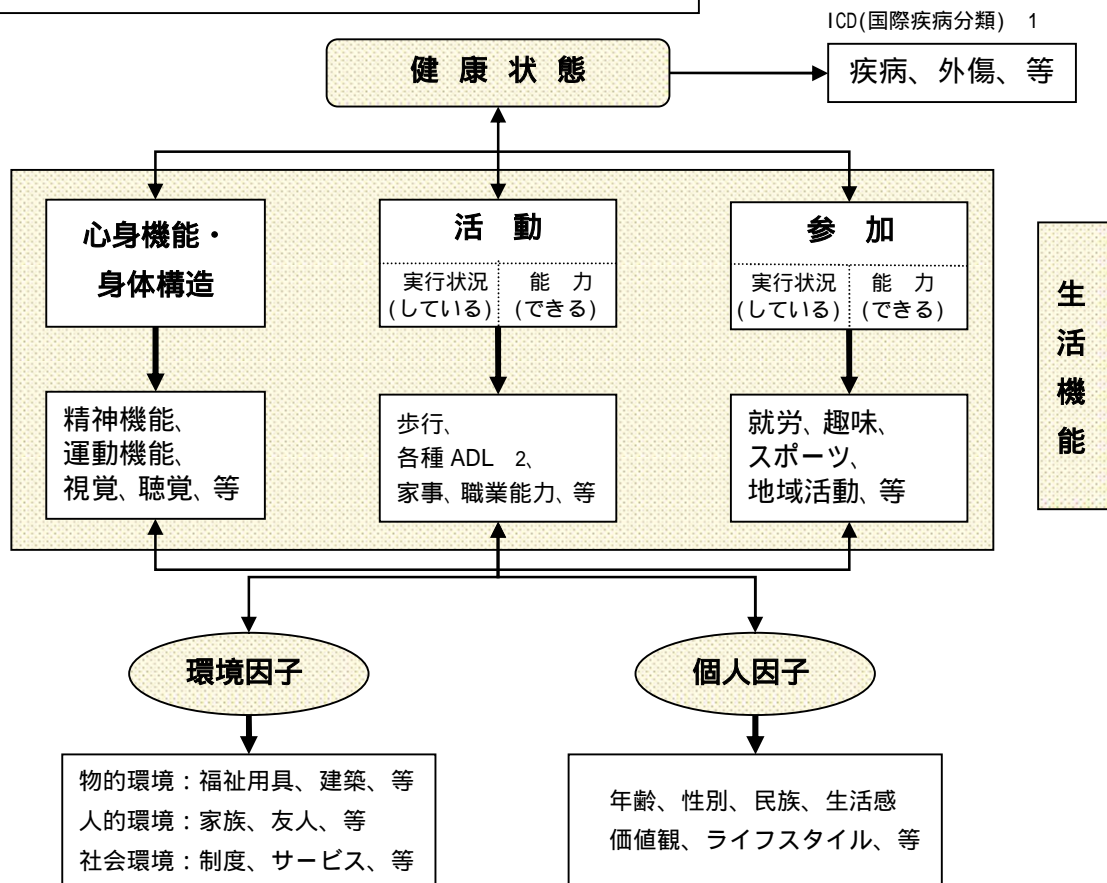
平成13年 5月、新たに「国際生活機能分類（ICF）」が、WHO総会で採択されました。

これは、疾病等に基づく個人のさまざまな状態の負の面のみを取り上げる従来の見方を改め、生活機能に支障がある状態を「障害」と捉えるように転換したものです。生活機能は「心身機能・身体構造」「活動」「参加」の3つの要素で構成されており、生活機能と障害の状態は、健康状態や環境因子等と相互に影響しあうものと説明されています。（下図参照）

このことにより、その人の障害は決して個人的なものではなく、例えば教育制度や周囲の人々の社会的態度に促進的にも阻害的にも影響されるという視点を取り入れられるようになりました。つまり、障害はその人を取りまく環境、人々の社会的な態度によって重くもなり、軽くもなる、ということです。

ICFを活用するメリットとしては、関係機関との連携において、教職員から見えにくい視点からも児童生徒の実態把握や指導内容、方法を共通理解でき、関係者間の指導上のずれを無くしたり、役割分担を明確化できたりすることが挙げられます。

構成要素間の相互作用（概念図：具体例の入ったもの）



厚生労働省大臣官房統計情報部編「生活機能分類の活用に向けて」より

1 ICD（国際疾病分類）は、疾病や外傷等について国際的に記録や比較を行うために WHO（世界保健機関）が作成したものである。ICD が病気や外傷を詳しく分類するものであるのに対し、ICF はそうした病気等の状態にある人の精神機能や運動機能、歩行や家事等の活動、就労や興味等への参加の状態を環境因子等のかかわりにおいて把握するものである。

2 ADL(activities of daily living)とは日常生活動作、毎日の生活を送る上で基本的かつ具体的な身体動作のことである。

参考・国立特別支援教育総合研究所ホームページ